



高度急性期医療と先進的医療の 開発・研究を総合力と優れた安全の下で

【教育】豊かな人間性を持った優れた医療人の育成

- 臨床と研究能力を兼ね備えた医師の養成。
- 特定行為研修の推進。
- 医療専門職の育成を図るとともに、職員の医療安全能力の向上に資するための実践的教育パッケージの開発を継続し活用する。



【研究】未来医療の開発・実践

- 社会との接点である附属病院の機能を活かし、先進的な医療の開発・導入を図る。
- 臨床研究法等、臨床研究に関わる規制への対応。
- AIホスピタル事業の推進。
- 情報信託機能を用いた医療データ利活用実証事業の推進。

【診療】高度な医療の提供

- 病院長のリーダーシップのもと、院内の診療体制の見直しを図るとともに、業務の効率化を促進する。
- 国及び地方公共団体等との連携強化。
- 高度機能病院として必要な診療環境を確保するため、施設の整備・改修を図るとともに、医療機器の更新・充実を図る。
- 患者サービスの更なる向上を図り、患者の立場に立った安心・安全な医療の提供を推進する。
- 全臓器移植を行っている国内で2施設しかない施設の1つであり、高度・先進的な臓器移植医療を今後も積極的に展開するとともに、小児も含めた臓器提供体制を十分に整備して責任ある臓器移植・臓器提供病院として本邦の移植医療の規範となる。
- がんゲノム医療の推進。

【地域医療への貢献】地域医療機関とのネットワーク

- 各センター等による地域医療への貢献を図る。

【国際化】診療と教育のグローバル化

- 国際医療センターにおける外国人患者の診療体制並びに外国人医療従事者等の研修受入れ体制（インバウンド）と、本院を中心に国内で開発された医薬品・医療機器・再生医療等製品・医療技術などのグローバル展開体制（アウトバウンド）、国際医療に関わる課題や院内教職員の教育（国際医療/グローバルヘルス研究・教育）を積極的に推進し整備する。

【運営】病院運営のための基盤強化

- 病院長のリーダーシップのもと、運営体制の見直しを図るとともに、業務の効率化を促進する。
- 防災対策及び災害医療に係る検討を行い、院内外の連携体制の強化を図る。

病院長からのご挨拶

質の高い医療の推進と 豊かな未来社会の 実現に向けて

大阪大学医学部附属病院

病院長 竹原 徹郎



大阪大学医学部附属病院は「良質な医療を提供するとともに、医療人の育成と医学の発展に貢献する」という理念を掲げています。

「良質な医療」とは何でしょうか？ 阪大病院では年間2万人以上の患者さんが紹介受診され、入院加療を受けています。大阪府下・阪神間はもとより日本全国から訪れる患者さんが求めているのは、大学病院ならではの高度な医療や最先端の治療です。阪大病院では、がん診療、循環器診療をはじめ、臓器移植、再生治療にいたるまで、幅広い領域で高度な医療が行われています。しかし、質の高い医療というのは単に高度で最先端の医療を指すだけではありません。医療は侵襲を伴う行為ですから、何よりも優先されるのは患者さんの安全です。本院では高度な医療を安全に行うために、チーム医療や多職種連携を通して、さまざまな取り組みを行っています。このような取り組みは国内でも高い評価を受けており、阪大病院は医療安全の分野でも全国屈指の存在として、指導的な役割を担っています。良質な医療を実施するためには、高度な医療とともに安全な医療が必要です。本院では高度で安全な医療を通して、患者さんに安心と満足を提供することを目指して日々の診療を行っています。

阪大病院に求められているもう一つの重要な使命が、未来の社会に役立つ医療を開発し、将来活躍する優れた医療人を育成することです。本院は2015年に医療法上に位置付けられる「臨床研究中核病院」として、全国で初めての承認を受けました。2018年には「がんゲノム医療中核拠点病院」に指定され、がんの個別化医療に取り組んでいます。さらに、未来医療開発部では再生治療をはじめとした先端的な医療開発に取り組み、AI医療センターでは内閣府の主導する「AIホスピタル」事業を推進しています。新しい医療は未来社会を豊かにし、AI（人工知能）を搭載した病院は快適な医療を実現するでしょう。そして、そのような未来を切り開いていくためには人材育成が欠かせません。大阪大学では、将来にわたって活躍する医療人—医師はもとより、看護師、薬剤師、検査技師、放射線技師など、さまざまな医療職—の育成を行っています。

最後に、本院の再開発事業について触れさせていただきます。阪大病院は、1993年に中之島から現在の吹田の地に移転してきました。それから30年近くが経ち、ところどころに老朽化や狭隘化が目立つようになってきました。現在、本院では再開発事業が進んでいます。この事業の中核は、現在の外来棟の北側に「統合診療棟」と呼ばれる地下2階、地上8階の建物を新たに建築し、現在の病棟との間は渡り廊下でつなぐというものです。新しい統合診療棟は外来機能だけではなく、手術室やICU、内視鏡センター、放射線診断/治療、臨床検査、患者包括サポートセンター、総合周産期母子医療センター、アイセンター、未来医療開発部などが入り、病院の高度な診療機能を担うことになります。再開発のコンセプトは、“Futurability待ち遠しくなる未来へ。”です。2025年の春からの稼働を目指して、工事が急ピッチで進んでいます。ご来院いただく方々には、できるだけ不便をかけないように努めてまいります。何卒ご理解のほどよろしくお願い申し上げます。